

多様性を認め、高め合う ～始業式の校長先生のお話より～

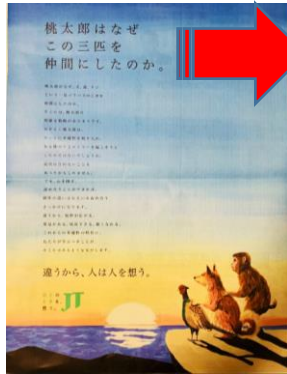
右の新聞広告と相田みつおさんの詩「セトモノ」を使って、校長先生がお話をされました。そのお話の中身を実際に見ていきましょう。

「桃太郎はなぜこの三匹(犬, 猿, キジ)を仲間にしたのか?」という問が最初にあります。「一見バラバラな三者を選んだのには多様性を取り入れ、ケミストリーを起こそうとした」ともあります。

ケミストリー? 英語では *chemistry* と書き、もともとは「化学」とか「化学反応」という意味があります。そこから意味が変化して「良い相乗効果」「互いに好影響を及ぼす」「相性が抜群」という意味合いで用いられることもあり、**単独行動に比べて格段に良い効果が引き出される協力・協調関係**といったニュアンスで用いられることが多くあります。

そこには「多様性」と「調和」があります。違いを認めて互いのことを知り高め合い、チームになることで、それぞれの良さや強みを発揮し、それぞれの役割を果たす。まさに「ケミストリー」です。2年生のみなさんの中にもそれぞれに「個性」があります。1人1人の個性を認め合い、それぞれがそれぞれの個性を安心して発揮できる温かい雰囲気(環境)を作っていくことが大切です。そして違いは高め合う関係性を作り、その集団の豊かさを創造していきます。そうやって互いに思い合い、支え合い、学び合い、高め合うことで、その人にとっても集団にとっても良い効果が2倍にも3倍にもなって表れるのだと思います。

そして、人とのよりよい関わりのために、ことばや行動に柔らかい心をもちましょうというメッセージも校長先生のお話の中にあり、相田みつおさんの「セトモノ」という詩を紹介していただきました。私は「相手を受け入れる柔らかさ」をもつことで、「相手も自分も壊れず、それぞれの個性を生かし合うことができる」のではないかと考えました。生徒会が取り組んでいる「ふわふわことば」がまさにその「柔らかさ」を表していると思います。東京オリンピック・パラリンピックの中でもくり返し言われてきた「多様性と調和」ということば。今まさに、私たちが大切にしていきたいテーマのひとつです。



桃太郎はなぜこの三匹を仲間にしたのか

桃太郎がなぜ、犬、猿、キジという一見バラバラの三者を仲間にしたのか。そこには、桃太郎の明確な戦略がありそうです。おそらく桃太郎はチームに多様性を取り入れ、ある種のケミストリーを起こそうとしたのではないのでしょうか。最初は合わないこともあったかも知れませんが、でも、心を開き、認め合うことができれば、個性の違いはお互いを高め合うきっかけになります。違うから視野が広がる。発見がある。成長できる。強くなれる。これからの多様性の時代に、私たちが学ぶべきことが、そこにはあるような気がします。違うから、人は人を想う。

セトモノ

セトモノとセトモノとぶつかりっこすると
 すぐこわれちゃう
 どっつかやわらかければだいじょうぶ
 やわらかいところをもちましよう
 そういうわたしはいつもセトモノ

相田みつお



学年集会での2学年の先生からのお話

2学期を始めるに当たって、2学年の先生方から学年集会の中でお話をしていただきました。それぞれの先生のお話の概要をまとめておきます。

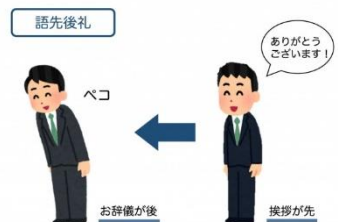
【川畑先生】

2学期は「プロフェッショナルに学ぶ」の総合的な学習の時間の取組や、学習成果発表会（文化発表会）、生徒会役員選挙、修学旅行などの取組が行われます。3年生（リーダー学年）になるための準備をしていく大切な時期になります。そのためにはまず、やるべきことをきちんとやりきることが大切です。例えば「あいさつ」「黙働掃除」「時間」です。南中で大切にしていることです。リーダー学年は行動で示すことが大切になっていきます。また、リーダーとフォロワーの役割をそれぞれが果たしていくことも大切です。リーダーの人たちに協力し、互いに支え合い、自分も大切にしている周りの人も大切にできる温かい学年にしていきましょう。

【長瀬先生】

中学2年生の2学期は、中学校生活の折り返し点になります。もう中学校生活も半分がおわります。2年生は3年生（学校全体）を支える中核的な存在になっています。何をしてもリーダー学年として見られる学年になっていきます。ぜひ、みんなにはいろんな先生方から「スゴいね」「がんばってるね」と言われる学年に、そしてリーダーとフォロワーの関係をより強くし、支え合い思い合える学年に成長してほしいと思います。

卒業生（高校2年生）がこの間南中に顔を見せにきてくれました。その時に「南中で良かったことは何ですか？」とたずねたところ、1人は入学して間もない頃、学年集会があったときに、先生が前に立たれたそうですが、自然に南中でしていたようにおへそを先生に向けて「傾聴姿勢」を取ったそうです。そしたらその先生がスゴく褒めてくれて、それからその学年は学年集会の時には必ずおへそを向けて傾聴姿勢をとるようになったそうです。また、別の学校では、「立ち止まって」のあいさつを、廊下で先生に出会った時に普通にしましたそうです。そしたら、その高校の先生は「そんなあいさつ見たことない」とスゴく褒めてくださったそうです。今南中で行っていることを当たり前丁寧にできることが、将来必ず役に立つということを先輩方が証明してくれました。ですから南中で大切にしていることを当たり前丁寧にできる力をつけていきましょう。



【秋山先生】

考えて動くことがとても大切になってきます。それを積み重ねて行くことで必ず成長できます。考えて動くために、まず、自分の生活に変化をつけてみてはどうでしょうか？例えば、私は毎朝昇降口の靴箱のところに立っています。そして、みんなにあいさつをしながら、靴箱の中の靴のかかとをそろえています。それをまずは自分できちんと並べられるようにしませんか？そんな変化でもかまいません。また、先生たちは修学旅行のことで一生懸命どこをどう変えて取り組んで行ったら安心安全に近づけるのか、どうやったら実施できるのかを考えています。考えたら行動に変え、一つ一つを積み重ねて行く。その積み重ねを大切に、日々成長していきましょう。